家畜防疫情報

# 豚熱の発生に備えた防疫演習の開催

防疫課　上嶋　芹菜

令和４年９月30日(金)、豊岡総合庁舎において動員予定者と市町担当者を対象とした豚熱発生時に備えた防疫演習を実施しました。

演習では、まず「通報から防疫措置開始までの一連の流れ」、「他県の豚熱発生農場における防疫対応」、「管内農場での発生を想定した防疫作業」について動画を交えた講習を行いました。

講習後は、発生を想定した集合施設における実地演習を行いました。受付での動員者名簿の作成、荷物預かり、帰路での名簿確認を通して、担当する農林事務所とともに現状の問題点を洗い出す事ができました。また、参加者には実際は農場で行う防護服の着脱を集合施設にて体験してもらう事で、自身の感染防止及び農場外へのウイルス持ち出しを防ぐために正しい装着が必要不可欠な事を理解してもらいました。

演習後の参加者を対象に行ったアンケートでは、「防護服の着脱だけでも現場の過酷さをイメージできた」、「過去に防疫作業に従事したことがなかったので非常に参考になった」等の声が多く、今後も継続して防疫演習を実施する必要性を感じました。

防護服等装備の着脱演習

家畜衛生情報

# 和牛講習会を開催しました

衛生課　田丸　大智

令和５年２月28日(火)、朝来市の和田山ジュピターホールにて、和牛講習会を開催しました。新型コロナウイルス感染症の影響から過去２年は開催に至らず、3年ぶりの開催となりました。

第一部では、第12回全国和牛能力共進会に出場した兵庫県立農業高等学校の肉牛研究会の生徒による発表が行われました。タイトルは「全国和牛能力共進会鹿児島大会報告」で、これからの畜産業界を担う高校生らの共進会出場に向けた努力がよくわかる、素晴らしい発表でした。

第二部は、神戸大学の大山憲二教授による「未来の但馬牛が見えますか？」というタイトルの講演でした。閉鎖育種を行う但馬牛の遺伝的多様性の問題点を提示され、遺伝的多様性を維持するための方針や、新たな価値観の創出及び普及の重要性を示されました。様々な立場、観点から但馬牛の未来について考えさせられる貴重な講演となりました。

当日は、畜産関係者を中心に約５０名の来場がありました。但馬牛の大切さを再認識し、畜産振興へより一層の意欲を燃やす契機となる講習会となったのではないでしょうか。

家畜衛生情報

# 祝　団体賞・資質賞受賞！ ～鹿児島全共結果報告～

衛生課　川口　黎子

令和４年10月６日～10日にかけて、鹿児島県で第12回全国和牛能力共進会が開催されました。当所管内からは５出品区に10頭の牛が出場し、表のとおりの成績を収めました。出品者の皆様におかれましては本当におめでとうございます。

出品牛はそれぞれ好成績を収めていますが、特に６区（総合評価群）では、種牛の部で３席と高評価を受け、被毛や皮などの資質が優れていたことから、特別賞の「資質賞」も受賞しました。また、兵庫県は全ての出品区で優等賞を獲得したことから、出品団体賞を初めて受賞しました。

なお、６区（肉牛の部）に県立農業高校と農業大学校が３頭を出品し14席、高校・農業大学校特別区にも県立農業高校が出品し優等賞10席という成績を収めました。

出品者ならびに関係者の皆様には、本当におつかれさまでした。次回の第13回全共は令和９年に北海道で開催予定です。飼養者の皆様には交配や飼養管理等、次回出品に向けた準備をお願いします。

現地激励会

第６区　等級決定

表　出品牛の成績（管内）

| 区 | 名　　号 | 出品者（敬称略） | | 成　　績 |
|---|---|---|---|---|
| １区 | 茂鐘波 | 新温泉町 | 中 井　　勝 | 優等賞10席 |
| ２区 | こうふく735 | 香美町 | 上 田　伸 也 | 優等賞15席 |
| ３区 | ただにしき | 新温泉町 | 中 村　文 吾 | 優等賞10席 |
| ４区 | まりな６ | 香美町 | 淀　　貴 至 | 優等賞７席 |
| | ゆりか２ | 豊岡市 | 谷 口　衣津美 | |
| | よしの | 豊岡市 | 小 牧　伸 典 | |
| ６区（種牛の部）※照和土井産子 | おおみぞ７の３ | 新温泉町 | 村 尾　和 広 | 優等賞９席（種牛の部３席）「資質賞」受賞 |
| | ちはるふく３ | 新温泉町 | 中 村　文 吾 | |
| | おふくてる | 香美町 | 上 田　伸 也 | |
| | よしふく５ | 新温泉町 | 植 田　秀 作 | |

家畜疾病情報

# 子牛のマイコプラズマ感染症について

病性鑑定課　栗原　秀弥

当所において、令和２年４月から令和４年12月の期間で病理解剖検査を実施した牛266頭のうち、61頭で呼吸器疾病が確認されました。このうち牛マイコプラズマ肺炎と診断されたのは29頭で、月齢区分で示すと、０～２ヶ月齢が５頭、３～９ヶ月齢が18頭、10ヶ月齢以上が６頭と、子牛で多い状況でした。このように呼吸器疾病に関与することの多い子牛のマイコプラズマ感染症について、改めてご紹介します。

## 【症状】

子牛のマイコプラズマ感染症は肺炎だけではなく、中耳炎や関節炎を引き起こす場合もあります。肺炎では発熱、発咳、鼻汁漏出等の一般的な呼吸器症状が見られます。病態が進行すると、肺の中に膿が溜まってガス交換ができなくなり、死亡することもあります(写真)。中耳炎では、片方もしくは両方の鼓室に膿が溜まり、耳介下垂（いわゆる耳だれ）が見られます。関節炎では、跛行と関節の腫脹が見られます。また、これらの症状が併発する場合もあります。

## 【感染経路】

主な感染経路は、①牛同士の接触による感染　②飼槽や水槽からの感染　③不適切な管理作業による感染です。感染牛の鼻汁には多量の菌が含まれており、これらとの接触、特に鼻と鼻の直接的な接触によって菌が他の牛に移動し、感染が成立します。さらに、感染牛は摂食、飲水時に飼槽や水槽を汚染するため、他の牛への感染の機会が高まります。また、牛床の管理作業を行う際に、消毒されていない長靴や作業着を用いると、菌を別の牛床に移動させることになり、感染を広げてしまいます。

## 【対策】

本病は農場全体に蔓延してしまうと対策が困難となりますので、発生が確認された場合、早期の対策が重要です。

### 1. 感染牛の隔離

前述のとおり、感染牛は他の牛への感染源となりますので、早期の隔離をお願いします。

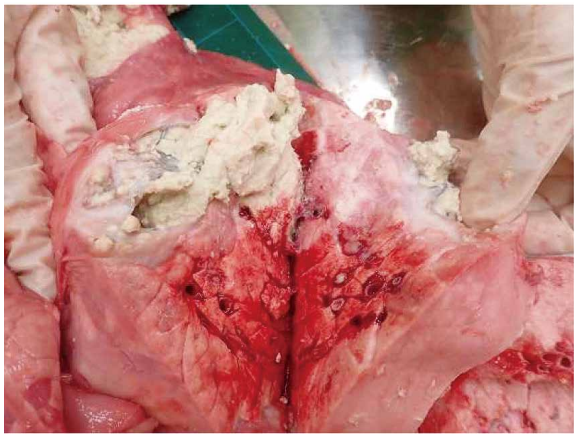
### 2. 衛生管理の徹底

マイコプラズマ菌には、農場で使用されているほとんどの消毒薬が有効です。牛房や長靴の消毒等、衛生管理の徹底をお願いします。

### 3. 飼養管理の見直し

本病の発症には、ストレスが大きく関わってきます。温度管理や飼養密度等、子牛のストレスをなるべく減らしてあげましょう。

この３つの対策は、本病以外の伝染病に対しても有効です。牛を飼養する際の基本的なことですが、今一度注意していただきますようお願いいたします。



膿（うみ）の溜まった肺